

審査講評

○採択されたプロジェクト

プロジェクト名：京北さとまち交流カフェ「恋咲楽」プロジェクト

提案者名：京北さとまち交流カフェ「恋咲楽」

評価された点

- ・過疎化，高齢化が進む地域での空き家再生モデルとなり得る提案内容である。
- ・提案者の事業実現に向けた熱意はもとより，専門性を生かした提案内容，地域との良好な関係や行政，大学等との連携，協力体制の構築に加え，地元の農家の方や大学生との協働による農作業等，既に具体的な取組を数多く実施しており，実現性が高い提案である。
- ・京北餃子のブランド化など，京北地域の魅力アップにつながる夢のある提案である。
- ・段階的にステップアップすることを想定するなど，計画性を持った提案であり，確実な事業実施が期待できる。

検討を要する点

- ・京北地域に居住されていないため，協力体制の充実を検討すべきである。
- ・事業継続のためには，収益が出ない間の持ち出しの軽減についてさらに工夫，検討すべきである。

プロジェクト名：春日学区住民交流施設整備事業

提案者名：春日住民福祉協議会

評価された点

- ・これまでの長年にわたる地域活動の成果を結集した提案であり，地域による空き家活用のモデルとなり得る。
- ・地域コミュニティ活動拠点や，地域のこどもと高齢者が共に学ぶ事業など，いずれも公益性が高い内容である。
- ・寺，神社等の借家運営について，他への波及効果が期待できる。
- ・所有者が収益第一ではなく，景観の保全や地域活動への貢献などに価値を見出している点が評価できる。
- ・大学との連携体制が整っており，継続的な事業実施が期待でき

る。

検討を要する点

- ・長期的な運営を継続するため、運営体制の強化が望ましい。
- ・貸家部分の運営の在り方について、さらに工夫、検討すべきである。

プロジェクト名：宇津銀座プロジェクト

提案者名：宇津銀座プロジェクト実行委員会

評価された点

- ・過疎化、高齢化が進む地域における、若者を中心とした地域活性化のための提案内容の実現が期待される。
- ・イベントの開催等によって、人が集まり、地域とまちなかとの交流が進み、新たなまちづくりの資源となることが期待される。
- ・地域住民が気軽に立ち寄ることができるコミュニティスペースの整備は、地域住民にとってもメリットが大きい。

検討を要する点

- ・仲間だけの閉ざした空間にならないよう、地域に広く受け入れられるための、具体的な仕掛けや取組が求められる。
- ・事業実施主体の整備・強化が求められる。
- ・既存施設の利用等により、事業コストの軽減を検討すべきである。
- ・月1回程度のカフェの開催では地域活性化の効果が期待できないため、開催頻度の増加を検討すべきである。
- ・協力機関との具体的な連携内容を検討のうえ、計画に反映させるべきである。

採択に当たっての条件

- ・開催頻度の低いカフェ部分については助成金の対象外とする。
- ・既存施設を利用するなど、事業の在り方を見直し、提案内容全てを実施すること。

○不採択のプロジェクト

プロジェクト名：芸術文化を通じた交流・創造の場づくりプロジェクト

提案者名：アートプロジェクト in 町内会

不採択の理由

芸術の力が地域課題の解決に資するという意欲的な提案内容であり、将来性に期待できるとの評価もあったが、次の点について提案が不十分であった。

- ・地域の現状リサーチ，課題分析が不十分である。
- ・住宅地の物件を活用することによって，提案内容全てを実現できるかどうかの検証が不十分である。
- ・地域のまちづくりの進展にどのように寄与するのが不明瞭。

プロジェクト名：五條ゲートウェイプロジェクト

提案者名：五條ゲートウェイ実行委員会

不採択の理由

空き家を活用し，まちの魅力アップにつなげたいという提案者の熱意から将来性に期待できるとの評価もあったが，次の点について提案が不十分であった。

- ・この地域で情報センター機能が必要とされる根拠や現状分析が不十分である。
- ・地域住民と連携する内容が不明確である。
- ・地域のまちづくりの進展にどのように寄与するのが不明瞭。
- ・周辺事業者との連携内容，連携して実現する内容が明確でなく，広がりが期待できない。

※ 採択，不採択のプロジェクトそれぞれ，公開プレゼンテーションで提案者が発表された順に講評を掲載しています。

○全体講評（西垣委員長）

京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトは、今回2回目を迎えることができました。この事業は空き家をまちづくりの資源と捉え、空き家の、京都らしく、かつ新しい活用方法のモデルを発掘することを目的とした、京都市にとってチャレンジングな試みです。特に今年度は、自由部門に加え、「留学生おこしやす部門」と「中山間地の魅力発信部門」を募集いたしました。

残念ながら、一次審査を通過した提案は5つにとどまり、その中に留学生部門の提案は含まれていませんでしたが、いずれの提案も非常によく練られており、意欲的な内容だったと思います。

この事業では、単に建物が再生され、有効に利用されるだけでなく、地域の活性化や、京都が誇る地域力の更なる向上など、「まちづくり」の観点を特に重視しています。その結果、今年度は、5つの提案のうちの3つを採択することになりました。

審査結果には、我々審査会の委員の得点に加え、公開プレゼンテーションにおいて来場者の皆様に投票していただいた結果に基づく得点も含んでおり、また、皆様に御記入いただいた各提案への意見も参考にいたしました。市民の皆様と一体感を持った審査を行うことができたと自負しております。

残念ながら、全ての提案を採択することはできませんでしたが、不採択となった提案についても、それぞれに評価すべき点がありました。

採択された提案者におかれては、提案にさらに磨きをかけていただき、着実に実現していただきたい。また、条件付採択となった提案者におかれては、確実な事業実施に向けて、更なる工夫、見直しを検討していただきたい。来年度の報告会を今から楽しみにしています。

最後に、審査に参加いただいた市民の皆様の御協力に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

来年もまち全体が元気になれるようなアイデアに富んだモデル・プロジェクトが数多く生まれることを期待しております。